



ごあいさつ



静岡県立静岡がんセンター 副院長
庭川 要

最も寒いとされる時候ですが、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、庭川要と申します。2002年の開院時に泌尿器科部長として赴任し、2017年より副院長を兼務しております。副院長としては、主に電子カルテ関連や、機器更新などを担当しております。

当センターの診療は、地域の医療機関の皆様のご支援をいただき、おかげさまで開院から23年を迎えることができました。日頃の皆様のご支援、ご協力に深謝申し上げます。

近年、様々な癌腫で術前後の補助化学療法が標準治療となったり、放射線治療併用が推奨されたり、また、新しい抗がん剤で生命予後が向上することで、治療が長期化する傾向にあります。治療中に、患者さん周囲の社会環境やADLが変化すること

も少なくありません。一方、医療を受ける患者さんは高齢化し、家族構成も変化し、独居や高齢ご夫婦の世帯も少なくありません。このため、癌発症前は日常生活が可能であっても、入院治療が終了後、すぐに在宅に戻れない患者さんが増えてきました。

このような状況の中で今後ますます、地域の病院、医院、訪問看護ステーション、介護・福祉施設と医療連携することが重要になっております。この地域にお住まいの皆様に、日頃、安心して生活を送るためには、病気になっても安心して治療が受けられるとだけいただけることが、大変重要な条件の一つであると考えております。

センター内では、新患者数の増加と予約待ち日数の縮小、逆紹介の推奨、手術件数の増加、病床稼働率の向上などに努力し、地域住民のご期待にお応えできるよう努力しております。

地域の医療機関の皆様とは、これからも、勉強会や交流会などを通じて、“顔の見える”関係でより深くお付き合いいただくとともに、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



もくじ CONTENTS

ごあいさつ	P1
特集：ロボット手術	P2
診療科紹介(泌尿器科)	P2～3
交流会開催予告	P3
地域医療連携室からのお知らせ	P4
編集後記	P4



第4回 ロボット支援手術～泌尿器科～

静岡がんセンターでは、ロボット支援手術に代表される低侵襲手術治療を積極的に行っています。

2025年現在、ロボット支援手術を行う診療科は、大腸外科、胃外科、泌尿器科、呼吸器外科、婦人科などの8診療科となっています。

今回の機関誌やまびこでは、泌尿器科におけるロボット手術を特集します。

泌尿器科におけるロボット支援手術

泌尿器科部長 庭川 要

ご存知の方も多いと思いますが、前立腺全摘は、ロボット支援下手術の中で、最も早く保険収載された手術です。開腹手術では、骨盤底の視認がなかなか難しいこと、標的の臓器が呼吸性移動しないため、ロボット手術に向いていることなどが理由であるかと思えます。

ロボット支援手術は、創が小さく、患者の回復が早いこと、拡大視野で精緻操作が可能であること、前立腺全摘や、腎部分切除、腎尿管摘除では開腹手術や腹腔鏡手術よりも手術時間が短縮されることなどがメリットになります。

泌尿器科では、まず前立腺全摘ロボット支

援手術を2011年に開始しました。ついで腎部分切除を、さらに腎尿管摘除をロボット支援下で実施するようになり、今では全ての前立腺全摘、腎部分切除はロボット支援下で行なっております。腎尿管摘除の半数と、一部の膀胱全摘もロボット支援下で実施しております。当初、手術支援ロボットはda Vinciで導入し、現在は病院全体でda Vinci 4台、ヒノトリ1台体制で手術を実施するようになりました。

最近の泌尿器科領域の薬物療法の進歩は、目を見張るものがあり、半年前の常識が通用しない程です。腎癌領域では、様々な分子標的薬 (MTORi, TKI) や免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) が保険適応となり、またICI TKI 併用療法や、ICI ICI 併用療法が一次治療の標準治療となっております。膀胱癌などの尿路上皮癌に対する薬物療法は、2011年までは、MVAC療法や、GC療法しかない時代が長らく続いておりましたが、同年エンフォルツマブベドチンやアベルマブの保険収載から、様々な薬物が利用可能になっており、新しい標準治療に対応しております。前立腺癌では、2025年12月に、177Lu-PSMA が保険収載されました。PSMA (前立腺特異的膜抗原) とは前立腺細胞表面に特異的に発現する膜貫通型タンパク質で、前立腺癌細胞では特に多く発現します。このことを利用して、ルテシウム (Lu) 177PSMA特異的リガンドを患者に投与すると、Lu177は前立腺癌細胞に結合し、β崩壊によりβ線を放出することにより治療します。β線は、体内では最大2.2mm程度しか到達しないので、体の他の細胞の被曝は非常に低く抑えられます。治療実施のためには、治療中患者さんは放射線遮蔽の特殊な部屋にいていただく必要があり、その施設を鋭意準備中です。



2列目 左から3人目、4人目：新坂医長、佐倉医長
1列目：中村医長、庭川科部長、山下副部長、松壽医長

【ロボット支援手術の写真】



サージョンコンソールにおける
ロボットアームの鉗子操作



泌尿器科における手術支援ロボット（da Vinci）の遠隔操作の様子

お知らせ

講演会等を通じた地域連携推進への協力をお願い

当院では、地域の先生方との連携をさらに深めることを目的として、医師会の会合や各医療機関での勉強会などの機会に当院職員がお伺いし、講演を行っております。

講師派遣の依頼がございましたら地域医療連携室までご一報ください。皆様のご希望をお伺いしたうえで、講演内容や開催時期等につきまして地域医療連携室にて調整させていただきます。なお、本取り組みは地域の皆様との交流を目的としているため、講演料は辞退させていただきます。

その他にもご意見やご要望がございましたら、地域医療連携室までご連絡いただけますと幸いです。今後も、皆様との良好な連携を一層深めてまいりたいと考えております。



地域医療連携室長 平嶋

お知らせ

2026年度静岡がん医療 地域連携交流会のお知らせ（開催予告）

2026年度も静岡がん医療 地域連携交流会を開催いたします。

日 時 2026年7月1日(水) 19時～21時(受付開始18:15～)

場 所 プラサヴェルデ コンベンションホール(沼津市大手町1-1-4)

詳細は年度明けに各医療機関、医師会等宛てにご連絡いたします。



2025 年度交流会の様子

地域医療連携室よりお知らせ

NEWS 研修情報

臨床腫瘍学コース

1) 2025年度臨床腫瘍学コース

毎月、臨床腫瘍学コースを開催し地域の医療従事者の方々にも公開しています。

開催時間：18:00～19:30、会場：静岡がんセンター 管理棟4階 研修室1

◇詳細は静岡がんセンター総務課企画人材班 TEL：055-989-5222(代)までお問合せください。

日時	テーマ	講師(敬称略)
2月27日(金)	血液のがん(仮)	血液・幹細胞移植科 医長 吉嗣加奈子

静岡 臨床研究研修会

2) 2025年度臨床研究研修会

臨床研究に携わる医師・歯科医師、研究支援者を対象とした研修会を開催しています。

◇詳細は臨床研究支援センター臨床研究管理・調整室 TEL：055-989-5222(代)までお問い合わせください。

日時	テーマ	講師(敬称略)
2月20日(金) 18:00～19:30	がん患者・家族への相談支援に求められる機能 ～よろず相談の実践から～	静岡がんセンター よろず相談(がん相談支援センター) 主幹 御牧 由子
2月26日(木) 17:00～17:15	臨床研究法等の改正について(その4) ～利益相反申告手続きの見直し、 疾病等報告の報告期日の改正など(仮)	静岡がんセンター 臨床研究支援センター センター長 坂本 純
3月5日(木) 16:00～17:00	がん治療に求められる支持療法と看護(仮)	静岡がんセンター 認定看護師教育課程 がん看護専門看護師 副看護師長 麻生 咲子

静岡がんセンターでは次の公式・公認アカウントで情報発信をしております。

最新情報はSNSで！公式アカウントをぜひフォローしてください。

静岡がんセンター
公式・公認SNS
フォロワー募集中！



▲Youtube



▲Instagram



▲Instagram(看護部)

編集 後記

2025年度目標のひとつは、機関誌「やまびこ」4回/年発行でした。この目標を達成し、あらためて裏方の大変さを実感しています。そこで、「やまびこ」で特集したロボット支援手術準備にどのような苦労があるのかについて手術室看護師にお話をうかがいました。特に大変な業務は機器の準備で、これに要する時間は45分。9時にスタートする手術件数が4件となれば、いったい何時から何人の人がこれに携わっているのか想像するだけで裏方の大変さを痛感します。それでも「やまびこ」発行、「ロボット支援手術」によるがん治療、その先にあるみなさんや患者さんの笑顔を想像したら、いくらでも頑張ることができる静岡がんセンターです。2026年度もよろしく願いいたします。

